

行政と歯科とを「繋ぐ」コミュニケーション～行政歯科職と臨床歯科職との連携～ 埼玉県本庄保健所長 遠藤 浩正 先生

2023年7月23日(日)10:00-12:30 オンライン

主催:日本災害時公衆衛生歯科研究会

講演後の意見交換

是澤 政勝 歯科医師 愛媛県歯科医師会

貴重なご講演ありがとうございます。保健所の仕事の範囲を知らないところがありましたので、今後何かトラブルがあった時に保健所と連携を取るのに非常に役に立ちそうなお話でした。

また歯科の分野も含めて、保健所が地域の保健活動をどのように考えておられるのかという事を、地域の医療関係者の方に知っていただく機会が欲しいと思いましたので、地元で何か活動ができないかを考えてみたいと思います。

遠藤 浩正

ありがとうございました。現在都道府県型の保健所は感染症だったり精神保健だったりという、いわばハードなヘルスに関わる人が多いので、十分にその地域の健康づくりについてコミットできる機会がだんだん少なくなっているように思います。

一方、中核市など市型の保健所はその部分が大事であると思っていて、地域の健康づくりにコミットすることができると思っています。

大黒 英貴 歯科医師 岩手県歯科医師会

ありがとうございました。先日の日本災害医学会でもお世話になり、ありがとうございました。

先生のお話は、共感しながら聞かせていただきました。特に、私は県とのお仕事が多いので、県の行政職の方々と色々なお話をしておりますが、以前歯科の医務主幹が辞められて不在の時期があり、その時はとても困りました。今は新しく医務主幹の方が入られたので非常に助かっております。それはやはり医務主幹が行政職の中で歯科の重要性を理解していただいているからで、あと今は非常に良い関係で、何かの委託事業の時にはこちらと行政の互いの想いを事前レクチャーで話をして、会議ですり合わせをするという事しております。

また、箱崎守男先生(前岩手県歯科医師会会長)のお話も出ましたが、人脈やコミュニケーションが大切で、災害の時には「会員を助けるのだけど、それは地域を助けることだ」という教をいただいたという感じがします。

栃内 圭子 歯科医師 岩手県

10年ぶりに歯科保健を担当することになりました。これまでに他分野で経験をしてきたことや、自身が行政マンとして図々しくなってきたこともあり、非常に仕事がやりやすくなってきたと思っています。大黒先生にもおっしゃっていただきましたように岩手県歯科医師会とは本当に良い関係でありますので、今後とも宜しくお願い致します。

遠藤 浩正

岩手県歯科医師会の先生方には、佐藤保会長をはじめ、かなり前からいろんな形でお世話になっております。本年3月11日に災害医学会で盛岡に伺い、前日の晩に箱崎守男先生とご一緒しましたが、やはり3.11について語るに尽くせない思いがあるのだなというのをすごく感じました。今、栃内先生と上手く連携を取りながらやっていたらという事ですので是非これからのご発展をお祈りしております。

栃内先生は先ほど図々しくなってきたとおっしゃいましたが、それはある意味先生の人脈も含めたネットワークが広がってきた証拠なのだろうというように思います。やはり先ほどお話しをしましたように、行政の仕事は人伝いということが多いので、どれだけその人とかかわって理解してもらえるか、色々な方に力を貸してもらえるか、ということがポイントのような気がします。本当にありがとうございます。

楠田 美佳 歯科衛生士 熊本県人吉保健所

熊本県の県南の人吉保健所におります楠田と申します。遠藤先生、貴重なご講演ありがとうございました。拝聴しながら共感できることがたくさんありました。

本庁にいる時も歯科職としては孤独だなと思いつつ頑張ってきました。歯科職ではありますが、精神保健や感染症などの仕事をその他の技術職や事務職の方々とコミュニケーションを取って一緒に仕事をしてきたこと、また、自分の仕事の範疇ではなくても一緒にやってきたからこそ色々なネットワークの中で支えていただけたのかという思いがあります。それが災害対応の時にも繋がったのかなと思っています。それは行政内部だけではなく歯科医師会や歯科衛生士会との連携においても同じであったかなという風に、今改めて思っています。熊本地震の時は歯科医師会の先生、歯科衛生士会の皆さんに非常に助けられました。それは入庁の頃から地域歯科保健に対する歯科医師会の先生方のご理解がとて深く、一緒に勉強会をさせていただいていた事もあり、その繋がりで災害対応の時も電話1本で情報を共有する事ができました。先ほどの遠藤先生のお話しにもありましたが仕事以外のところでの関係性をきちんと築いていけたからこそ出来た事なのだと思います。やはり顔が見える関係性が平時よりできていることが大事なのかなと思われました。

遠藤 浩正

私も歯科以外の仕事を保健師さんと一緒にやることで保健師さんとの人間関係がすごくできたと思っています。楠田さんのように歯科以外の仕事に関わる中でコミュニケーションが取れていった、まさしく私も全くその通りに歩いてきたので本当にそうだなと思いました。熊本県歯科医師会の浦田健二前会長、それから今の牛島隆専務理事には社会歯科学会なども含めてお世話になりました。やはり岩手県歯科医師会もそうですが、このように歯科医師会に良いカウンターパートナーがいるというのが、地域が伸びていく1つのポイントなのかと思わせていただきました。

(ここからは時間の関係で、先にいろいろな方からご意見をいただいてから、まとめて遠藤浩正先生にコメントをいただきました。)

久保田 潤平 歯科医師 九州歯科大学

貴重なお話をありがとうございました。障害者歯科のお話がありましたが、障害者歯科学会会員としても何とかしていかなくてはならないと思っています。福岡は九州の中では障害歯科治療への対応において恵まれています。他県だと例えば認定医の数が少ないこともあり、九州アクティブネットワークというのもあったりはしますが、毎回議論となるのがセンターでの治療受け入れがパンパンでなんとかならないか、という事です。福岡においても在宅の方に対してなかなか手が回らない、大学の方でもまだ体制が取れていないという事で、今、歯科医師会と一緒に大学で進めているところですがまだ詰められていない状況で、やはりコミュニケーションが大事だと思っています。また、大学内でさえも我々の部署が行っている診療内容について情報発信しているつもりですが、普段からやり取りの多い診療科以外では未だに知らない人もいて、やはり普段からのコミュニケーションが大事だということが、先生のお話を拝聴しながら痛感致しました。

嘉手納 一彦 歯科医師 那覇市口腔保健支援センター

貴重なお話をありがとうございました。私は臨床を20数年やって、それから行政に入って11年目になります。最初に出会った部長に「待ちの公衆衛生ではダメだよ、攻めの公衆衛生をやりなさい」ということを非常に強く言われました。また歯科職が採用されたことをとにかく市の職員にアピールするのが大事だから、色んな所に顔を出せ、ということであらゆるところに顔を出させていただいたり、自らの足でいろいろなところに伺って那覇市に歯科医師がいるということをアピールして、色んな繋がりを作りました。また逆に郡市歯科医師会の専務理事までさせていただいたので今でも歯科医師会の月一の定例会に顔を出して情報提供をしたり、歯科医師会側で困っていることを伺ったりしています。

医局に在籍していた時の先輩から、「名刺交換をしたら次の日には必ずメールをして一言挨拶をするように。そうすることで人のネットワークがどんどん繋がるよ。」ということを言われまして、今でもそういう風にして繋がりを作っています。遠藤先生の今日のお話をうかがい、改めて自分の基本に、初心に戻るというところで、あと10年は頑張っていきたいなと思っています。

善徳 勇貴 歯科医師 帯広保健所

貴重なご講演をありがとうございました。私は帯広保健所というところにいます善徳と申します。帯広の保健所で十勝管内は2次医療圏と3次医療圏が唯一一緒の大変大きな所にはなるのですが、遠藤先生のお話を聞いてやはり歯科職だけではどうしても人数が足りないのと多職種で関わっていくことがとても重要であることを再認識いたしました。また、十勝管内でいうと帯広市内には100件近い歯科医療機関がありますが、その他は本当に少ない状況ですので歯科だけではなく他の医療職についても関わりながらやっていければ良いと思います。

新型コロナウイルス感染症の時はどうしても疫学調査票の中に歯科の文言は一切なくて、かかりつけ歯科はインフラであるというようなお話もありましたが、そういったものを支える上でも、こちらから積極的に調査を行って歯科的ニーズをしっかりと把握していくことも非常に重要だと思いました。今は歯科医師会と話し合いながら進めていますし、保健所全体のマニュアルの中にも歯科のところが入っていかなくてはいけないということで、その辺りの話も進めていって、今日のようなご講演や中久木先生を始めこの研究会で学んだことをしっかりと現状のほうでも活かせるようにこれから頑張っていければと思います。

堀江 博 歯科医師 奈良県, 全国行政歯科技術職連絡会

連携の話や医療的ケア児の話が出てきましたが、連携のことで言うと、行政に入ってから23年になりますが、法に従ってきちっとした仕事をしていく組織だと思っていたら実は大間違いな部分もあって、結構ウエットな人間関係に基づいたゴリ押しの仕事というのも色々あります。それでそういうところに食い込もうとするとやはりコミュニケーション能力というのがかなり必要です。また、歯科医師会も会長がどなたになるかでカラーが変わるので、その時々に応じた付き合いの仕方がいるのではないかと思います。

また、歯科職が本当に少なく、これだけ仕事が増えていく中で、予算が下りてきても誰が事務をするのですか、というような状況で、むし歯と歯周病だけやっていれば良いという風に昔は思われていましたが、今は全身の健康との関係や、災害の領域で歯科的な事が増えてきているので、歯科医師会の先生方が職員数の確保というところで動いていただけるとありがたいな、と思います。災害時においてもちゃんとアクション取れる職員がいないと回っていきません。障害者の歯科治療についても治療に当たり知識やスキルが必要になると思うので、診療ができる先生を計画的に養成し、計画的に配置していくことが政策として必要になるかと思っています。

遠藤 浩正

先生方、ありがとうございます。

久保田先生のお話しされたように、障害者医療の事は本当に課題で、11月の障害者歯科学会で私もシンポジウムで参加させていただきます。それは障害者歯科学会と歯科麻酔学会と社会歯科学会の連携に関するものですが、関連するテーマもあるので学会でお会いできればと思います。この問題は引き続き考えていきたいと思うとともに、本当に学内での連携と、また学外での連携というところは大きな課題だと思います。

嘉手納先生、すごい経歴だなと改めて思います。歯科医師会もやられて臨床もやられてから行政って、ある意味理想的なところがあるな、とっていて、コミュニケーションのお話をしてくださいましたが、やはり関係を深めていくことが大事なのだと思いました。

善徳先生、新しく勤務されて本当にご苦労されているかと思います。地域が広い分、いろんな課題があるのだなと改めて思わせていただきました。

最後に、堀江先生が語ってくださいましたが、私も行政に入った時の最初の印象はシステムティックなところだと思いました。やればやるほど、人間関係含めてウェットな部分が本当にいっぱいあって、そこをどのように乗り越えていくかというのが仕事だったなと今も思います。人材育成についても歯科職の増員を実際に人事課や財政の方にその必要性をどのように認めてもらうか、またどうやって継続的に育成していくかというのがポイントになるだろうと思います。

今日は本当に皆様に聞いていただいて、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

閉会の挨拶

田村 光平 歯科医師 東京都

ありがとうございました。今回は災害というより、「繋ぐ」というところで、行政と歯科医師会の連携が主にテーマであったのかなという風に思っております。連携について、私としては今日この場におられる方々に関しては、大丈夫なのだろうなと思っています。わざわざ日曜日の午前中に時間を取って、こういうお話を聞こうと思っている時点で、すでに連携について真剣に考えて実際にやられている人達ばかりだと思っています。むしろ、こういう場に出てきていない人達の方が心配なのかなと思います。ですので、そういう人達をいかに巻き込んでいくかということが課題であり、大変なところなのだろうと感じているところでございます。

今回あまり話は出ませんでした。歯科専門職同士の連携は何かんだとできるのですが、行政は中も結構大変でして、楠田さんからのお話には出ませんでした。災害が実際に起きた時にすごく内部との調整でご苦労されて悔しい思いをされたと同っております。私も今、行政内部で歯科の話を通していくのがいかに大変かというところを感じております。特に予算の部分で、来年度、自分としては災害の歯科保健に取り組んでいきたいと思っていて説明をしているのですが、なぜ必要なのかというところで色々注文を言われている状況ですので、やはり中が大変かなと思っております。そのような部分に関して歯科医師会の先生方もサポートしていただくと、より中で孤軍奮闘している歯科職としては大変助かるな、という風に思ったところでございます。

本日は遠藤先生から本当にためになる話をたくさん聞かせていただきまして、どうもありがとうございました。この経験を積まれた話を明日からどのように仕事に活かしていこうかと思っているところでございます。本当にありがとうございました。

記録:中村美喜子(歯科医師 福井県歯科医師会)